

(様式2)

令和 5 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1571500162		
法人名	医療法人社団一栄会		
事業所名	グループホームよしだ		
所在地	新潟県糸魚川市横町5丁目9番12号		
自己評価作成日	令和5年5月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年7月27日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者様の自然体が出る雰囲気作り、共同生活における活動をとおして「はりあい」「生きがい」を感じていただくことを大切にしています。
- ・季節を感じていただくよう、季節に合わせた壁の装飾、作品の製作等を行っています。
- ・気分転換や季節を感じていただけるように併設された畑での農作業や散歩、外出を取り入れています。
- ・同一敷地内に併設病院があり、利用者の状態によってすぐにも受診が可能であり、医療および健康管理面において安心して生活していただけます。
- ・利用者の”出来るチカラ”を引き出せるよう創意工夫し、個人の生き方や価値観を大切に生活支援に取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームよしだ」は今年開設24年目となる事業所である。同法人が運営する整形外科を中心とする「よしだ病院」と介護老人保健施設「ケアポートよしだ」が隣接し、法人全体で地域に密着した事業運営がされている。

コロナ禍では職員一丸となって感染対策に邁進し利用者の安全確保に努めてきた。今年5月の5類移行後も、隣接の病院・施設とも連携し少しずつ方針を見直しながら、慎重に諸々の制限解除を進めており、今年度は、外出等、職員から様々な企画が提案されている。

コロナ禍では家族との面会もままならなかったが、利用者の普段の様子をできるだけ家族にお伝えできるよう、毎月発行する事業所便り「ちゃんまいる」には写真をたくさん取り入れて作成した。地域との交流やイベント、外出などもほとんどできなくなった中で、少しでも利用者を楽しんでもらえるよう、職員はレクリエーションを工夫し、中庭に花を植えて花を見ながらアフタヌーンティーを楽しんでもらったり、事業所脇にある畑では利用者と一緒に野菜を育て、収穫し、食事に提供して喜んでもらうなどしている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりの生活歴を振り返り生活の質の向上につなげます。地域との関係作りに努め、気軽に立ち寄れる開かれたグループホームを目指します。」の理念に基づき、職員が個々の利用者に対して計画を立案、実行している。	事業所の理念とともに、10年前に職員間で話し合っって作成した「職員理念5か条」がある。これらの理念を掲示し、職員会議や日頃の支援の中で話しあい、確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人主催の盆踊りに地域の方々に参加いただいたり地区の老人クラブと交流していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として他者との接触を自粛しており、地域との交流を中断している。	コロナ禍による諸々の制限の解除は慎重に進めており、利用者と地域との交流はまだ再開できていない状況がある。そのような中でも、職員が高校の認知症サポーター講座講師を務めたり、地域包括支援センターからの依頼により地域の事業に協力するなどして、地域とつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校で実施された認知症サポーター養成講座の講師として職員が講演を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面会議とし、利用者の状況やサービス提供等の報告書を各位に送付し、いただいた意見や質問は全職員が共有し、次回の運営推進会議の報告書で各位に周知している。	コロナ禍以降書面開催としており、2ヶ月に1回、メンバーに資料を送付して意見や要望を得るようにしている。市の職員からはレクリエーション内容や防災訓練に関する質問があり、都度回答するとともに、職員間でも共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員と地域包括支援センターの職員が参加しており、事業所の取り組みを伝え、意見をいただいている。また、併設の包括支援センターの担当地区内にあるので、連絡を密に取っている。	市の職員が運営推進会議メンバーとなっており、事業所の状況を把握してもらっている。市からは研修案内をもらったり、制度に関する質問や問い合わせを都度行っている。市が主催する地域密着型サービス事業所のネットワークにも参加し、意見・情報交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で、身体拘束廃止委員会を設け、研修会を実施。理解と認識を高め日々のケアにつなげている。中玄関の施錠は職員の体制上やむを得ない時を除いてしていない。	法人の「身体拘束廃止委員会」により研修を実施しており、事業所の職員も参加し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。歩行が不安定な方と視覚障害のある方にセンサーマットを使用しているが、適正化のための指針に基づき、毎月評価・検討を行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の身体拘束廃止委員会による研修会を実施。認識を深めている。	法人の「身体拘束廃止委員会」が、身体拘束と虐待防止の研修を実施している。虐待防止のためのマニュアルも整備されている。また、法人全体で年1回、職員のストレスチェックを実施しており、結果は事業所にフィードバックされ、相談体制も整備されている。管理者は日常的に職員と良くコミュニケーションを取り、気になるケアがあった時はその都度話をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員と連携し、必要に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、文書に基づいて十分な説明を行ったうえで、利用者や家族の意見もうかがい、手続きをすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員の良好な関係が構築されており、率直な意見を聞くことができる。自身の思いを表すことが出来ない利用者に対しては日々の言動より意向を探り、検討しより良い関係作りや運営に反映させている。	家族会が設置されているが、コロナ禍以降活動を中止している。年1回のアンケート調査や面会時などに家族の意見や希望を聞くようにしている。利用者の意見等は日々の関わりの中で把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は介護職も兼務しており、日常業務の中で職員との意見交換を行い、運営に反映させている。	2ヶ月に1回の職員会議だが、コロナ禍での集合のリスクもあり、十分に出来ていない状況があった。そのため管理者は常に職員に声をかけて意見や要望の聴取に努めた。職員の意見により、レクリエーションの工夫や中庭でのガーデニングなどの取り組みを行ってきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者が職員の努力や実績を評価し、意欲向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に講習を受講できる環境にあり、研修参加後に職場で報告、情報を共有している。グループホーム職員での勉強会と法人全体学習会があり積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが開催する同業者のネットワーク会議に参加し交流を深めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に来られた際は話を傾聴し、本人の心身状態や思いと向き合い、受け入れられるような関係づくりを心がけ、安心して利用していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をゆっくり聞き、求めていることを理解して次の段階への相談につなげるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を把握、一番必要としている支援を見極める。それを元に改善に向けての柔軟な対応を行い、時には他のサービス事業者につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	タオルたたみや、洗濯物干し等の家事活動を依頼している。畑での野菜作りや、山菜の調理法などの知恵をアドバイスしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の相談事には常に耳を傾け、一緒に本人を支えて行くための情報を共有している。	家族には「ちゃんまいる」という事業所便りを毎月欠かさず送付している。写真をたくさん載せ、利用者の様子を書き添えている。パーテーション越しではあるが家族の面会も増えてきている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣を尊重し、大切な人、場所、物を写真で部屋に飾ったりしている。郵便物等が到着した際はご本人とご家族へ電話をかけ会話の機会を増やすよう心掛けている。	コロナ禍により友人や親戚の面会、理美容院等への外出も難しくなったが、電話を取り次いで家族等と話してもらったり、窓越し・パーテーション越しの面会をしてもらうなどしている。今後、徐々に外出を増やしたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴等で孤立しがちな利用者は、職員が間に入り周囲とのコミュニケーションを図っている。性格が合わない利用者どうしにはパーテーションを利用したり、活動時間をずらす等の配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの相談をうけており、関係する施設や事業所との連携を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に私の姿と気持ちシート(センター方式より)を活用し意向の把握に努めている。	居室担当職員や計画作成担当者を中心に、本人の意向や思いなどの情報を得たら「気持ちシート」に記録し、職員間で共有できるようにしている。常に本人の状況を考え、本人本位に検討するよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に私の暮らし方シート(センター方式より)を活用し、ご本人や家族に今までの生活やどんな活動を好むかお聞きしてサービスにつなげている。	入居前には管理者、計画作成担当者が自宅に訪問し、生活状況や生活動線などを確認している。「センター方式」のアセスメントシートである「暮らし方シート」を活用し、家族や、入居前の担当居宅ケアマネジャー、利用していたサービス事業所等から情報を得て整理しており、介護計画見直しにも活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活リズムを把握して、できることに視点をおき、力を発揮していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族から思いや意見を聞き、その人らしさを介護計画に反映させている。又、状態の変化に応じ計画の見直しや検討を行っている。家族には細やかな状態変化や状況をこまめに報告、相談している。	コロナ禍によりサービス担当者会議への家族の参加は控え、電話で説明し意見を聞いている。計画作成担当者と居室担当職員が本人や家族、他の職員の意見を集約し、検討会を行って計画の見直しをしている。計画内容を確認できる記録様式の工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や状態変化など個別の記録や連絡ノートを用い全職員が情報を共有できるよう徹底している。又、それらを介護計画の見直しや評価にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等の支援を行い、個々の安心、信頼、満足を高めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や地域包括支援センターと連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医となっている。受診や通院は家族同行となっているが、訪問診療に来てもらうケースや本人が希望する医療機関への支援もおこない複数の医療機関と関係を築いている。	入居時に本人、家族に医療機関の希望を確認している。隣接する協力病院に主治医を変更する方が多いが、以前からの医療機関を継続している方もいる。通院の場合は家族に同行してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師、地域包括支援センターの保健師等との連携体制ができており、利用者の状態に応じて適切な受診等の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関へ情報提供をしている。医療機関関係者と連携し、安心して治療できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より本人の思いを傾聴し家族の面会時や通信時に家族の意向を伺う等の情報交換を行い方針を共有している。その情報を看護師、地域包括支援センターに伝え連携を図っている。	入居時に、重度化した場合の対応に係る指針、看取りに関する指針を、本人・家族に丁寧に説明している。本人の状態変化があれば、都度家族ともよく話し合い、対応を確認している。住み替えが必要と考えられる場合は、隣接する介護老人保健施設等と連携している。指針や考え方は職員間でも周知・共有に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えての応急手当を学び職員全員が身につけている。又、応急後の連絡体制もできている。	緊急対応のマニュアルはいつでも見やすいようファイリングしている。救命講習も全職員が受講済みだが、更新に向けて計画している。感染症の発生に備えて、委員会によりマニュアルの作成や研修の企画・実施がされており、コロナ禍では特にガウンテクニックなどの対応の研修を実施した。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練に参加している他、事業所単独で火災や水害など設定を変えて数回行っている。災害時の対応は法人全体の自主防災組織で対応する体制になっている。	法人で自衛消防団が組織され、病院・施設・事業所間での連携・協力体制が整備されている。各種の災害に対応したマニュアルも整備されている。市のハザードマップでは河川の洪水による危険がある地域となっており、水害を想定した避難の準備にも取り組んでいる。	備蓄品としては、事業所では水のみを準備し、ほかには隣接する介護老人保健施設のものを利用することになっている。事業所として必要な備蓄品の種類や量などをリスト化し、隣接施設と必要備蓄量等の共有をするなど備えの強化を期待したい。BCP(事業継続計画)は法人として検討中であり、グループホームについても具体的な内容で整備されることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム会議やミーティングなど日常的にプライバシー保護について確認しあい、本人を傷つけないよう言葉かけや対応に努めている。	法人の接遇研修が年1回実施され、職員が参加している。利用者一人ひとりへの言葉かけに留意しており、管理者は、日頃から必要に応じて職員に声掛けをするなど配慮している。個人に関する記録は利用者や来訪者から見えないところで行い、ファイルは事務室内で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が少しでも自己決定できる場面に努め、意思表示の困難な方には表情の読みとりや本人の雰囲気やキャッチしながら自己決定できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れはあるが一人ひとりの体調や気持ち、要望に配慮して、個別性を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣にあわせた支援を行い、理美容院は家族の理解協力のもと馴染みの所でカットや毛染めをしてもらえるよう連携をとっている。または併設老健に出張で来られる理容師を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルス感染症対策として、利用者の調理や食事準備への参加は中止している。 誕生日の利用者には希望するメニューを提供し、利用者と職員でお祝いをしている。	献立は職員が作成し、隣接施設の栄養課から栄養バランス等を確認してもらっている。食材等はスーパーに発注して配達してもらっている。焼き芋やおはぎ、ホットケーキ等のおやつ作りを行い、利用者に喜ばれている。コロナ禍以降、食事作りへの利用者の参加は控えており、まだ再開するに至っていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録に残し、職員が情報を共有している。個々の一日の食事摂取総量等をおおよそ把握出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの力に応じた見守りや介助を行っている。就寝前は義歯の預かりや洗浄を行うなど本人を配慮しつつ清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の生活リズムにあった対応を行っている。疾病等による一時的なオムツ利用の場合もトイレ誘導等により回復支援に努めている。	一人ひとりに合わせた声かけや、歩行が不安定な方には見守り、夜間みのポータブルトイレの使用などをしながら、現状の状態維持に努め、可能な限りトイレで排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分量、食材の工夫や運動の働きかけにより、自然排便ができるよう心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則として曜日、時間帯を決めてあるが、職員配置人数によって入浴介助者を確保できるときは、利用者の希望に合わせて入浴を楽しんでいただけるように努めている。	概ねの曜日や時間帯は決めつつ、状況に応じて入浴できる日を増やして、利用者の希望に応じて入浴してもらえるようにしている。職員がマンツーマンで見守りながら、ゆっくり話をしたり、好みの入浴剤を使うなどして、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や状況に合わせて、日中の活動を促して、安定した生活リズムを作り、安心した休息や安眠に繋がるよう努めている。時には不穏な状態が続く場合などは家族と相談のうえ医師と相談も行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握出来るように、また受診等において医療関係者に返答できるよう既往歴、現病なども服薬ファイルに記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加、軽作業など各々ができることをお願いし、感謝の言葉を伝えることにより、できることの実感や生き甲斐となる楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外での活動は、感染対策のため中断している。流行の状況によっては感染対策を十分に行って散歩や敷地内の畑での活動をすることもある。	感染防止のための諸々の制限解除は慎重に行っており、外出を再開するには至っていないが、事業所脇の畑での野菜作り、中庭でのガーデニング、育てた花を見ながらのアフタヌーンティーなど、戸外での活動を増やして楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力のもと少額を手もとに持っていたいでいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも買い物や自動販売機などでお金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内には公衆電話が設置されており、家族や知人などに自ら、又は職員に依頼して電話をかけることができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面の装飾をしている。行事で使用した物などで部屋を装飾している。また、調光やテレビの音量は常に職員が配慮し、調整している。五感や季節感を取り入れる工夫をしている。	リビング兼食堂では利用者がテレビを見ながらくつろいでいる。ソファ等を配置して少人数でもくつろげるよう工夫している。食堂のテーブルは感染対策として仕切り板を設置している。廊下や壁面の飾りなどは派手にならないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の席以外にもソファーや長イスなどで、くつろぐことが出来るスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた品物や好みのものを持ち込んで頂き、安全面にも配慮しながら使い勝手がいいように配置などの工夫にも努めている。	ベッドは事業所で準備し、それ以外は使い慣れたものを自由に居室に持ち込んでもらっている。家族の写真や行事で作った作品が飾られ、その人らしい居室づくりがされている。現在、感染防止のため居室への家族の立入りを控えており、家具の配置や衣類の入れ替えは職員が支援している。清掃や空調の管理、換気なども適切に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりが設置され、自立移動がとり易い環境となっている。個室内も活動性が維持できるよう安全に配慮しながら配置の工夫を行っている。トイレ位置などは案内板を設置し、安心できる環境づくりに努めている。		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				